



日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ



*主な記事：第19回大会ご報告、学会企画研修会報告、第20回大会ご案内等

ニュースレター 2025 No.2

2025年12月1日 JPTA事務局 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1 尚絅学院大学 東研究室内
メールアドレス info@j-ptta.net

本学会第20回大会が矢崎大会長のもとに開催されました。子どもから高齢者まで、様々な成果をもたらしているパペットセラピーの実践が紹介され、その可能性の広がりを実感する大会だったと思います。また、多くの方々が遠方よりご参集くださり、こころから感謝申し上げます。（編集長：中下富子）

日本パペットセラピー学会第19回大会を終えて

大会長 矢崎 育子（ヤザキ イクコ）

パペットセラピーの豊かな可能性～それぞれの場で寄り添うパペット～

日 時：2025年10月19日（日）9時30分～16時

会 場：社会福祉法人全国心身障害児福祉財団ビル7F 会議室（東京都豊島区大塚43-11）

今大会では、「パペットセラピーの豊かな可能性」をテーマに様々な実践をしている方に発表していただき有意義な大会になりました。

アンケート回収率は78.1%で、自由記載から、「高齢者への対応や認知症の話が大変良かった。」「様々な発表が有ってとても勉強になった。」「実演や具体的な実践の話が分かり易くてとても良かった。」「パペットの豊かな可能性を感じた。」等の熱く思いのこもった感想を沢山の方に書いていただきました。



大会長講演は、実態や目的に合わせてどう活動して来たかについてお話しさせていただきました。教育講演は狩野英美先生から、認知症ケアと予防、パペットセラピーの可能性について分かり易く考察していただきました。一般演題の発表は、医療・福祉・心理等から貴重な発表をしていただき幅広い可能性に気づくことができました。シンポジウムでは、色々な立場で実践している方に、なぜパペットセラピーなのかのテーマで、有意義なお話と実演をしていただきました。ワークショップでは、皆さん和気藹々と、パペット合唱団と一緒に合唱をしたり、アイスブレークで互いに向かい合ってゲームをしたりしました。最後のディスカッションでは、グループに分かれて和やかに話し合うこともできました。今大会で色々と学び感じたことが、今後の実践に少しでも繋がっていくことを願います。

今回は矢崎、中下、出山、東海林の4人の理事が実行委員をさせていただきましたが、ご協力をいたいた
座長、コーディネーター、理事、そして参加してくださった皆様方のお陰で、無事に大会を終えることができました。



今年度は直ぐ定員になり増席できませんでしたが、来年は広い会場になりますので是非沢山の方に参加していただきたいと思います。



学会第19回大会に参加された皆様より（敬称略）

渡部 昭（ワタベ アキラ）

第18回大会に初めて参加し、今回の大会が2回目です。昨年度の大会ではパペットが医療現場や様々な場でその新奇性と安心感を発揮して活躍している発表を聞いてとても感動しました。昨年、私は学校に来ても教室に入れない生徒へのパペット＋プログラミング教育の実践を始めていましたので、不登校児童生徒への対応の発表はとても参考になりました。

19回大会では、「認知症とパペットセラピー」についての講演と実践がとても印象的でした。私の身近にも認知症や軽度認知障害になっている人がいます。今後の認知症の人の増加を考えると認知症の人への対応は大きな課題のように思えます。大会に参加して学んだことをできるところから一つ一つ実践していきたいものです。

青柳 一美（アオヤギ カズミ）

大会に初めて参加し、幅広い分野の発表や交流を通して、パペットセラピーの可能性の広がりを実感しました。矢崎先生主宰のパペット合唱団の一員として山梨で活動しており、今回もギターの優しい音色に合わせて歌い、会場が一つとなり心が通い合う温かな瞬間を感じました。障害者福祉施設で働く中で、メンバーさんの提案でパペット劇を上演したり、笑顔のなかったメンバーさんが、自らそっとパペットを手に取り「おはよう！」と明るく話しかけてくれたりと、パペットが優しく心を開く力になっていると日々感じています。大会を通してその思いが更に深まりました。これからもパペットの可能性を信じて、笑顔と温もりを届けていきたいと思います。

長岡 景子（ナガオカ ケイコ）

第19回大会に参加させていただきありがとうございました。大会長講演では心理・保育・教育・医療・福祉などの知識と仲間の実践から視野を広げ、想像を超えるエネルギーッシュな活動に基づき、対象者へ真摯に向き合う姿勢に深い感銘を受けました。そして教育講演では、認知症への備えと対応が具体的に示され、歌唱や人形を用いた介護現場での実践が患者の方々に、自信や笑顔をもたらす点が印象的でした。

さらに3題の口演では、タオルパペット導入による認知症症状の軽減やパペットセラピーワークショップでの言葉の扱いが、興味深かったです。研究は綿密な準備と丁寧な記録に基づいた結果と考察が素晴らしい、重症心身障害者への介入効果を示唆する発表やCさんとミント君の関係変化を示す段階的な表など、スライドも含めて非常に理解しやすく、とても勉強になりました。

加えてシンポジウムでは、多様な腹話術の披露や、ダウン症の会による親子パペットの取り組みが心を打ち、ワークショップとディスカッションでは合唱や学生さんたちによる起承転結の人形劇が会場を盛り上げ、参加者全員がエキサイトする場面がありました。盛りだくさんの内容で構成された第19回大会!!多方面の実践と研究に触れられる忘れがたい日本パペットセラピー学会となり、深い学びと感動を得られたことに、改めて感謝いたします。



大内 真理子（オオウチ マリコ）

今回、医療、介護等の現場で息づくパペットの姿にふれ、多くの気づきがありました。事例報告で、認知症の方がパペットとふれあい、記憶や発話が引き出されたことを知り、母との最期にパペットがいたら…と感じました。また、入院している孫とはタオルパペットという形で遊べるかもしれない希望をもつことができました。

小学校に勤めていた昨年度まで、パペットを相棒に子どもたちと様々なことを考えていく中で、私の想像を遙かに超えた反応や活動が繰り広げられたことを思い出しました。まだまだパペットと一緒にやってみたいことがあることを、この大会で実感しました。がんばってみたいと思います。ありがとうございました。

第19回大会を終えて：参加された皆様より（敬称略）

内山 しのぶ（ウチヤマ シノブ）

初めて日本パペットセラピー学会に参加し、先生方の深い思いや、介護・看護の現場での具体的な実践事例に触れることができ、大変学びの多い一日でした。認知症の方のストレスをやわらげたり、障害がある方とのコミュニケーションツールになったり、非行少年が自らパペットを使う姿など、パペットの持つ力と可能性を強く感じました。また、パペットを動かしながら参加者の皆さんと合唱させていただいて、大人も社会的立場を脱いでピュアな気持ちになれる効果があることを実感しました。どの立場でも生きていくのは大変ですが、そのパートナーとしてパペットが居ることを私も広めていきたいと思います。先生方・参加者の温かさに触れ、改めてパペットセラピーの魅力を感じた楽しい1日でした。学会を開催してくださった皆さんに心より感謝申し上げます。



中澤 綾（ナカザワ アヤ）

今回の大会テーマである「パペットセラピーの豊かな可能性」を実感し、日々実践されている方々が集まったこの日、皆さんの熱量と優しさで会場は包まれていて、とても充実した楽しい一日となりました。

また、大変刺激を受け、私ももっと頑張ろうと決意するきっかけを頂きました。発表の中で、具体的な注意事項や心がけ、場面や対象者への配慮など、大切なことを改めて学び、今後忘れることなく自分自身に活かして行きたいと思っています。



学会に入会後、初の大会参加にして、一般学会員の私がシンポジストという身に余る貴重な機会を頂きましたことに大会長の矢崎育子先生をはじめ、実行委員の先生方に心より感謝申し上げます。

第19回大会感想・来年度機関誌「パペットセラピー」20巻発刊に向けて

名誉理事長 原 美智子（ハラ ミチコ）

本年10月19日（日）、2025年度の大会が無事終了しました。関係の理事様はじめご関係の皆様、ご参加の皆様方、大変ありがとうございました。研究発表の先生方にはパペットセラピーの素晴らしさが実感できるご発表をありがとうございました。今年度の機関誌でまたじっくりと研究内容を読ませていただけるのを楽しみしております。

さて今年度大会シンポジウム「なぜパペットセラピーなのか～パペットセラピーだからできること～」でシンポジストとして「現場で生きる腹話術とパペットの可能性」という題で、中西けい子様が、楽しいお話をくださいました。その中で、以前に機関誌へ論文投稿された際のお話をなさいましたので、その追加の説明をさせてください。2021年の機関誌15巻1号に中西様の論文投稿にあたり、編集委員の一人として私が、論文作成のお手伝いをさせていただきました。相談はZoomで行いました。結果は2021年度機関誌15巻1号に「高齢者施設におけるパペットを介在させた傾聴ボランティアの実践（その1） 一グループセッションの場合」中西けい子（腹話術師スージー・日本免疫カウンセリング協会認定心理カウンセラー）として、38-42ページに掲載されました。学会ホームページの会員専用ページに全文が掲載されています。会員の皆様はぜひお読みください。

来年は遂に機関誌は20巻目となります。編集長の中下富子副理事長に感謝申し上げます。この記念すべき号に、会員の皆様の日々の貴重な実践の記録を投稿してください。埋もらせてはもったいないです。論文書きは億劫でしょうが、お産婆さんのように精一杯論文誕生をお手伝いさせていただきます。

いつでもご相談ください。学会事務局にご一報ください。お待ちしています。

学会企画 研修会【パペットセラピーカフェ】報告

研修委員長 千葉 俊一（チバ シュンイチ）

2025年度研修会では、今年もパペットセラピーカフェを7月21日（月・祝）14時～15時で開催しました。みんなで楽しく情報交換をしたり、会員の近況を伝え合ったりなどの学び合える場を持ちたいと集っていただきました。参加人数14名で、パペットのマイケル・ニヤクソンの店長で進めました。委員長の千葉による普段行っている腹話術の話をしました。どんな人を対象に腹話術しているか、どんな所でやっているかなど紹介をしました。

また、今後の予定では基礎講座を2026年1月16日と20日に実施いたします。第19回大会で基礎講座のご案内をいたしましたので、既に満席となりました。但し、11月末迄に後1名ご希望が有れば受け付けます。今後も学会企画 研修会を開設いたします。学会ホームページを随時ご確認くださいますようお願いいたします。

「日本パペットセラピー学会第20回大会のご案内」

大会長 森平 直子（モリダイラ ナオコ）

第20回大会のテーマは「パペットセラピーと感情」です。

教育講演は脳科学者の恩藏絢子氏にお願いしています。また、準備委員会企画プログラムだけではなく、前回同様、会員から演題を募集します。今回はより多くの皆様に日ごろの実践の様子を気軽に発表していただけるよう、ポスター発表を導入します。壁際に並べたボードに発表内容をまとめたポスターを貼り、その前でパペットと一緒に発表していただきます。いくつかの発表を同時並行で行いますので、20人くらいの方に発表していただけます。



後日改めてご案内しますので、奮ってご応募下さい。

会場は昨年東京医科歯科大学と統合して東京科学大学として船出した旧東京工業大学のキャンパス内で「大岡山駅」の目の前です。目黒・大井町・五反田等に宿をお取りになると便利です。

前夜には大会とは会場も料金も別になりますが、パペットづくりのワークショップもできればと考えています。

大会長：森平 直子

大会準備委員：高村 豊・岡 信行

開催日：2026年11月1日（日）

会 場：東京科学大学大岡山キャンパス・蔵前会館1階（東京都目黒区大岡山2-12-1）

事務局だより

おかげさまで「日本パペットセラピー学会 第19回大会」は、70名を超える皆さんにご参加いただき、あたたかな雰囲気の中で無事に終えることができました。アンケートからも、矢崎大会長の掲げるテーマのもと、それぞれの現場でパペットに向き合う仲間が集い学びを深める時間になったことが伝わってきました。講演や研究発表、パペット合唱団とのひととき、参加者同士の交流もご好評をいただきました。

1月のオンライン腹話術基礎講座も早々に満席となり、関心の高さを感じています。AIが進む時代だからこそ、

心に寄り添うパペットセラピーの価値を改めて感じる大会となりました。

これからも皆さんと共に歩んでまいります。（事務局長：安藤 倫子）

